

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100470		
法人名	特定非営利活動法人 緑風会		
事業所名	グループホーム大清水		
所在地	高崎市箕郷町柏木沢158-2		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>《グループホーム大清水の運営方針》 利用者にとって家庭であり、スタッフにとって家族である 敬愛な気持ちをもって、楽しい時間を作り上げていく 地域の行事や、地域の方々と交流をはかり、ともに歩むことに努める 季節折々の風景・情緒が楽しめる近場の名所公園等に毎月ごとにドライブしたり、毎月外食ランチの日を設定して 好き好きに昼食を楽しむ機会を持っている</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年8月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は、資格を取るなどの意義や目的を明確にした上で、職員に資格取得を促し、勤務上の配慮や講習会参加費用負担などの資格を取るための支援を行い、資格取得後手当の支給等で処遇に反映させるなど、職員を育て、運営に活かすよう努めている。また、職員は、日頃のケアを通して、入居者に寄り添うなか、観察眼を持って接し、入居者の行動・しぐさ・顔色など、きめ細かい観察から入居者の思いや意向を把握し、入居者本位に検討し、入居者がその人らしい暮らしを続ける支援に繋げるよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針・理念を朝夕引継ぎ時に当番職員全員んで復唱して、その意義について徹底を図っている	開設当初からの理念に、地域密着型サービスを踏まえ、地域の行事や地域の方々と交流を図り共に歩むことを文面に加え、ホームの方針とし居間等に掲げ、朝夕引き継ぎ時に職員が復唱して共有を図り、確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に屋外で地域の方々と会った時には積極的に挨拶等をするともに年間行事での交流ももっている。H22年度は、和太鼓を招いて鑑賞の場を持って昼食を地域集会所で実施	地域の活動などの行事には、管理者や地域に住む職員が参加し、地域とのつきあいの基盤づくりに努めている。入居者は、散歩時に、周辺の人と挨拶を交わすなど顔なじみの関係が出来ている。また、太極拳、ハーモニカ、三味線などのボランティアが毎月訪れ、交流が行われている。	個々の入居者が地域社会と繋がりがながら、当たり前暮らしを続けられるよう、ホームが外に向かったの努力を更に継続されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事には積極的に参加し、道路清掃・余暇活動にも参加できる職員は参加している。又上記の行事にも地域の方々を招いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席いただいた方からの意見等で実践可能かどうか話し合い、可能なものには取り組むようにしている	運営推進会議には、民生委員などの地域の方、市や包括支援センターの職員、入居者の家族の出席を得て、2ヶ月に1回開催している。会議は、毎回「生活環境・日常生活・地域交流等」決められた協議項目に沿って管理者が報告し、出席者から意見などをいただいている。	ホームからの報告とともに、参加者から実践に役立つような、外からの気づきが引き出せる会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議出席依頼・認定更新支援時には担当者調整したり相談をしたりしている。各種行政連絡には殆ど応じて有効に活用している	市の担当者とは、施設改善や認定更新時・生活保護対象者に関する相談などで窓口を訪ねるなど、関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全管理上必要時以外は、拘束をしないように努めている。その場合においても利用者家族等には説明をして最小限にとどめている	ホームは、開設当初から身体拘束をしないことを念頭に取り組んできている。職員は、月1回開催のケース会議などで、身体拘束について話し合い、理解を深めると共に、徘徊や放尿癖などの行動をよく観察し、工夫しながら身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員相互で類似する対応の在り方について協議検討して、可否・不可避について慎重に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の制度を利用している利用者が1名いるので、各状況における実態・対応についての判断等について職員相互で理解するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や運営規定について説明し、質問も伺って理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関は入り口に御意見・要望を自由に記すことができるように設置して、人目を気にせず利用できるようにしている。ケアプラン見直し時には、家族等の要望意見のアンケート調査を毎回実施	家族訪問時や日頃の電話連絡時に意見・要望を聴いたり、3ヶ月に1回の介護計画の見直し時に「家族アンケート」を実施し、意見や要望などを聴くようにしている。これまでに、ネームプレートや職員の顔写真の表示などの要望が家族から出され、反映させている。意見・要望等については、意見箱の玄関設置のほか、重要事項説明書に詳細に明記している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員相互で意見を出し合い、必要に応じて対応対処している	毎月開催のケース会議などで、職員から運営についての意見などを聴くようにしている。管理者は、資格を取ることの意義や目的を明確にした上で、職員に資格取得を促し、勤務態勢変更や講習費用負担・資格手当の支給などの支援を行い、職員を育て、運営に活かせるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務予定を編成するときには、職員の休日希望を優先して、休暇・研修を有意義にとれるように調整している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修講習及び資格取得のために、指定休日として有給休暇扱いでスキルアップにも努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を最大限に生かすようにしている。施設同士の都合もあり調整困難な場合もあるが、機会を有効に活かしたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学は随時自由に開放し、設備等の説明をして利用者個々の生活動作に従った対応としての案内説明をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後において、利用者持病等の通院支援も職員が安価な費用で支援サービスもしていること等も含めて安心して利用できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険法上の利用は限度額となっているので他の保険法上の利用はできないが、行政の実施している各種措置制度の利用は可能な限り利用できるように説明をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩やドライブ外出時も含め、日常的に利用者個々にあった話題で会話をしたり不安を取り除くように環境作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人の認知症状況を踏まえて、日常生活におけるケアについて解りやすく説明をすると同時に家族の心配・不安についても聞くように心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受入れ時の要望・引継ぎ事項以外についての関係者等の方々には自由に交流できるようにしている	時々孫、甥、姪などの親族が来訪されている。また、時には、家族が来訪時に、一緒に夕食や墓参りに出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う、合わないといった面もあるが、め事にならないように気をつけて会話に限らず可能な限り利用者同士の交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期加療で退所した利用者にも時々、医療機関等に問い合わせたり、見舞いをしたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の認知症状況に差異があり、それぞれに合わせたケア対応をとり、家族の要望等もケアプラン見直し時にアンケートを取っている	職員は、日頃のケアのなかで、観察眼を持って接し、入居者の行動、しぐさ、顔色などきめ細かい観察から入居者の思いや意向を把握し、入居者本位に検討し、入居者がその人らしい暮らしを続ける支援に繋げるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時早期に家族等からアセスメントをとり、生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居して日常生活に落ち着きが出てきたら、利用者の状況把握に努め、それに沿ったケアをできるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一度は利用者一人一人についてのケア会議を実施し、情報を共有すると共に介護計画の作成をしている	家族から来訪時あるいは「家族アンケート」等により意見や要望を聴取し、毎月1回午後6時からの全職員参加のケース会議で、個々の入居者の介護日誌を基に話し合い、ケアマネージャーが中心に介護計画を作成し、家族の同意を得ている。ケース会議の結果は、会議録を作成し、供覧して確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々全員の介護日誌を記録し、朝夕の職員交代時に引き継ぎを徹底して情報の共有をして介護計画に反映するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイもサービス提供しているので、ディサービスの視点も持って運営し、家族の要望等にも対応するよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の方が毎月定期的に訪問されている又、太極拳・三味線・ハーモニカ歌謡等のボランティアの方々も定期的に来てくれて協力を得ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	持病疾病は何らかはあるので、二人のかかりつけ医が隔週で往診していただき健康保持に努めている	本人や家族の意向を確認し、結果2名の協力医がかかりつけ医となっていて、かかりつけ医が隔週で往診している。また、それ以外の科等に通院する場合は、家族対応が基本であるが、必要に応じて職員が同行して、入居者の状態などを説明し、医師との情報交換・相談などにより、かかりつけ医との連携・協力関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在だが、かかりつけ医が往診してくれる時や随時相談等を電話などでしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には先ずかかりつけ医に医療相談をし、必要に応じて入院の照会書を書いていた。入院した場合には担当看護師と緊密な連絡を取り治療の状況把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、家族と早期に連絡を取り、入院等利用者に適した医療機関・施設の紹介説明をしている	過去、家族の要望を受けてホームにおいて看取り介護を経験したことはあるが、現在は家族や医師等との連携・協力関係を踏まえた、重度化や終末期に向けた方針については、今後の課題となっている。	将来に備えて、重度化・終末期の方針や看取り等の体制づくりを関係者で検討することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、普通救急救命講習を職員は交替で受講し、初期対応を速やかにできるように努めている又、かかりつけ医にも緊急連絡を取り処置判断を仰いでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも協力を要請し、避難訓練や消火器・警報装置の扱い訓練を毎年2回実施	年2回、夜間想定も採り入れた訓練を、1回は消防署の立会い指導の下・1回は自主的に訓練を実施している。訓練は、緊急連絡網に基づく通報訓練、避難誘導訓練、消火器を取り扱った消火訓練などを実施している。地域の方々にも緊急時の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報関連は厳密に管理し、利用者一人一人に合わせたケアに努めている	呼び名は、基本的には名字に「さん」付けをしているが、本人の生活歴や反応を見ながら、適切な場合は、家族の了承を得て、「ちゃん」付けで呼ぶ場合もある。声かけは、難聴者を除き、なるべく大声を出さないように気を付け、入浴や排泄時にはドアを閉めたり、居室の出入り際には声かけするなど、一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に声掛けをする中で、利用者の気持ちを理解したり、可能な限り希望を受け入れるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビやカラオケ等自由にさせていただきながら、生活のリズムを築くようにしている サンルームでの談話や、レクリエーションでも参加自由で強要はしない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣替えは勿論のこと、共同生活をするうえでの身だしなみには注意を払った支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者本人のできる力で跡かたづけや下こしらえに参加し、毎回の毎日のメニュー内容には注意を払って変化を持たせている	食材は、職員がスーパー等で栄養バランス等を考えながら買い出しをしている。入居者の好みなどは日頃の食事の様子などを観察するなかで把握して、その都度のメニューとなっている。月に一度外食ランチを実施し、食生活に変化を持たせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節折々水分摂取は脱水症状を避けるうえでも重要なことであり、又、食事摂取量を記録しながら体調を確認するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアには注意を払い、夕食後は入れ歯等は預かり殺菌脱臭管理をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつは使用していても、時間を見計らいトイレ誘導に常に心掛けている	個々の排泄の状況を介護日誌に記録し、パターンを把握して、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。また、入居者の行動などを観察し、その人のトイレサインの特徴を掴みトイレ誘導するとともに、夜間にはトイレに常時点灯して、トイレの位置確認の手助けをするなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取・必要に応じた刻み食等に配慮しているそれでも便秘症の場合は、かかりつけ医に相談して下剤等も使用して支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男性・女性という配慮の上、交替日時をとっている入浴拒否もあるが、時間をずらして極力入浴を勧め衛生保持と本人の気分にも配慮している	入浴は、週2回以上午前中としているが、希望があればこれ以外にも対応している。このほか、失禁時や汗をかいた時などには、シャワーを含め対応し、衛生管理に努めている。また、入浴を拒む入居者には、時間をずらしたりするなど、工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝は促しをして本人の自立的行動を重視し、眠れないようであれば話し相手をしたりテレビを見ている時もある。昼寝もあくまでも促しによる自立行為を重視している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医等の処方による服薬のみで、処方箋に従った服薬支援をしている。処方箋に薬効等書きされており、強い薬はかかりつけ医と相談しながら服薬支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々で嗜好趣味等は違うので、できる限り一人一人の気持ちを受け入れるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は気分転換にもなるので日常的に時間を見計らい実施している。時々は数人ずつでドライブ等もして季節感を感じられるようにしている	陽気の良い時には、散歩の好きな入居者は職員と出かけている。また、月1回の外食行事を実施したり、季節の花見にでかけたり、外出支援をしている。時には、家族が来訪時に入居者と一緒に外食に出かけたりしている。	これまでの生活の継続として、本人の自立や意欲を保つためにも、日常的な外出の実現に向けての検討をされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の希望で立替払いの買い物は日常的に支援している。現在の利用者の中には金銭の所持にこだわりや課題を持っている利用者はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話をかけることは自由にしていただいているが、家族との確認も含めて必要性を把握するようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の性格や相性もあるので、混乱を避けるために職員で検討して食堂の席は決めているが、他のホールやソファアでは談笑の場なので自由になっている	居間兼食堂の共有空間には、行事の写真や季節の貼り絵などが飾られている。また、食堂の席は、入居者同士の間隔関係を配慮し決めるなど、入居者が居心地良く、安全に過ごせるような工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い共用空間作りということは、一人になれる時も必要であり、相性の合った利用者同士が近接して談笑できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が自室においても混乱を起こさないように調度品の配置には検討を加え、持参品も必要に応じて自由に持参している	居室には、家族が持ち込んだ入居者の馴染みの調度品が配置されたり、塗り絵などの入居者の作品が飾られ、入居者が落ちついて過ごせる支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知度は利用者個々が異なっているので、一人一人の状況を鑑みて環境を整える支援をしている		